

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
発行人 内藤留幸  
編集主筆 竹澤知代志  
印刷所 株式会社きかんし



厳しい質疑の中、一つひとつに答える内藤留幸総幹事

第36総会期

## 第4回常議員会

1 2 3 4 5 6

### 戒規申立受理、執行巡り議論

#### 伝道所の内容と位置づけに具体的答申

第36総会期第4回常議員会は、2月15日から2日間、教団会議室で30人全員が出席して開催された。

議事に入る前の点呼の冒頭、山北宣久議長は、「北村慈郎氏が常議員席に就いているが、教団新報4692号の公告で明らかなように、北村氏には戒規が適用・執行されている。

しかし、2月12日付で上告書を受理したので、施行細則6条により審判委員を選任し協議を行う。その決定が出るまで処分は保留となる。従って本日は従前通りの点呼を行いたい」と提案した。

これに対し、異論も出て意見が相次いだ。挙手多数で議長提案は承認され、

点呼が行われた。

議事日程の件で山北議長は、「審判委員選任の件を追加議案として第2日目第1の議題として扱い、戒規適用に関する議論は総幹事報告で扱う」ことを提案し承認を得た。

総幹事報告では、当然のように、北村慈郎常議員に対する戒規適用問題が火を噴いた。戒規処分反対論では、「常議員は教団新報に掲載された公告だけでは知らず、北村氏本人も戒規申立書を見ていない」と資料開示・請求。「個人の資格で提訴したのは教師委員会が受理したのは適性か」との手続き上の疑義論、「先例集96は素晴らしい歯止めだった。一委員会だけで判断するのではなく、委員会が議長

と話し合ったのか。教師委員会から特設委員会設立の申し出があつて然るべきでなかったか」「未受洗者配餐の事実をどのようにして確定したか」など教師委の判断を問うものなど。

これに対し、戒規処分賛成論では、「本人の上告があつた以上、重く受け止め、審判委の判断を待つべき」「教師委の判断の是非を常議員会で下せるとは教規は規定していない」「本人が発言・文書で認めている以上

の事実はない」などで議論は平行線をたどった。松井睦教師委員長は、09年7月31日の戒規適用申立書(代表者小林貞夫)受理以来、調査委員会を設けて調査・審議し、「北村氏は3度の面談要請にも『信仰

職制委の回答が出るまで応じられない』として応じてくれなかった。調査委は北村氏の文書・発言を仔細に調査し、本年1月26日の委員会では北村氏が教規第135・136・138条・教憲第1条に違反しており、免職が相当だとして3分の2以上の賛意を得て決定した」と経緯を説明した。

これに対し、北村常議員は、「教師委員会とは理解が違ふ。申立書受理に対し、私と紅葉坂教会は質問書を教師委員会に出したが、その回答が『信仰職制委の答申に疑義があるなら、諮問したら』との回答を頂いたので、09年11月18日付で諮問した。私は『答申が出るまで面談は待つて欲しい』と言ったのであつて『応じ

ない』とは言っていない」と反論した。阪神淡路大震災第2次募金を巡る兵庫教区との話し合いについて内藤留幸総幹事は、「09年12月14日、林邦夫教区議長らと話し合い、①第2次募金は総幹事の取り扱い事項であること、②第2次募金は総幹事を改めて確認の役割を終えたものは順次教団に返却するなど6点で合意を見た。5千900万円ほどあると思うが次回常議員会で報告する」と述べた。長時間費やした総幹事報告は挙手多数で承認された。

08年7月の信仰職制委員会の「伝道所について教規と実態との間に乖離がある」との答申を受け、第36総会期に設立された「伝道所の内容と位置づけに関する検討小委員会」が答申を行った。

第2種教会の条件を現行の「現任陪餐会員おおむね20名」から「おおむね10名」とし、この条件を満たさぬ場合でも「総会を行い役員会を組織する場合」第2種教会となること出来るなどの教規変更案を含んだ答



陪席者多数、満員状態、いやがうえにも熱気こもる

する」と語った。幹事任用の件で、総務担当幹事に、藤盛勇紀氏(藤沢北)(任期10年4月から4年間)、嘱託幹事に大三島義孝氏(宣教担当・碑文谷)、加藤誠氏(世界宣教担当・静岡一番町)を新任。野村和正氏(宣教・教師検定担当)、道家紀一氏(教師・宣教研究所担当)、小林貞氏(同宗連担当・非常勤)(いずれも10年4月から1年間)を再任。今泉幹夫嘱託幹事(宣教担当)は09年12月退任した。

長山信夫能登半島地震被災教会会堂等再建支援委員会委員長は、「2月12日現在、1億3千625万円(目標1億5千万円の91%)にまで迫ったが、委員会の任期は10月の教団総会までであり、七尾教会・羽咋教会の会堂建設のため、何としても目標を達成したい」と諸教会の一層の支援を訴えた。

(永井清陽報)

### 審判委員5名を選任

#### 戒規執行への上告に伴い

議事日程において承認されたとおり、2日目の冒頭において、山北宣久議長より、追加議案として、「審判委員選任の件」が上程された。

まず、議長は、審判委員の選任は、教規第39条において、そのことを「常議員会に諮問し、また決議すること」ができると記されている議長の総括行為であ

ることを示しつつ、賛否および意見は議事にゆだねるコメントした。その後、経緯及び選任の方法等について説明を行なった。

経緯は、教師委員会が戒規申立書を受理し、執行したことに對して、北村慈郎牧師より上告がなされたことによるものである。戒規施行細則第6条には、「議長は、通告を受け

たる日より14日以内に常議員会の議を経て、審判委員若干名を挙げ、之を審判させるものとする。審判委員において決定したものは最終決定とする」と記されておられ、これに從う。

この細則に基づき、審判委員の資格について具体的に次のように提案された。○若干名とあるのは5名が適当と判断する。

○三役は入らない。○常議員のみで構成する。○公平性を保つために、当事者、申立人はこれを除外する。

次に、審判委員は、上告の理由が正当か否かについて、及び戒規が適正か否かについて、審判することが確認された。以上の議長の提案を受けて、まず後宮敬爾常議員か

ら、本件の議事運営そのものについて、直接の利害関係者は自分に関連する議事から離れて審議するのが通例ではないか、直接の利害関係者をはずして審議を行ってほしいとの要求があつた。この件に関しては、採決の方法を巡って多少紛糾したが、否決された。

次に、教師委員会が受理した申立書、北村慈郎牧師と紅葉坂教会に送付した文書を資料として開示すべきである、ということについて議論が集中した。審

判委員を選ぶ以上、事柄を明確化したい、また、資料が無ければ、審判委員を選ぶ判断の材料に乏しいなどの意見が上げられた。

それに対して、それらの資料を請求し審議することから審判委員の仕事が始まるのではないかと意見が出された。さらに、藤掛順一常議員から、まったく白紙の中で審判委員になつて、そこで初めて資料を見ることで公平性を保てるのではないかと、この発言があつた。

以上の議論を経て、資料開示の理由としては、審判委員を選ばない、事柄を明確化したい、また、資料が無ければ、審判委員を選ぶ判断の材料に乏しいなどの意見が上げられた。それに対して、それらの資料を請求し審議することから審判委員の仕事が始まるのではないかと意見が出された。さらに、藤掛順一常議員から、まったく白紙の中で審判委員になつて、そこで初めて資料を見ることで公平性を保てるのではないかと、この発言があつた。

(秋葉恭子報)



第 36 総会期  
第 4 回常議員会

教区間格差、信頼関係で根本の議論

教区活動連帯金検討委員会設置

山北宣久教団総会議長より「教区活動連帯金検討委員会設置に関する件」が提案された。

委員会は常議員 3 名、予算決算委員長、配分検討委員会推薦者 1 名で構成、期間は第 36 総会期中、経費は常議員会費より支出する。提案理由として下記のとが挙げられた。現在教区活動連帯金は、第 27 回教団総会で可決された議案第 36 号に基づき、教区活動連帯金配分協議会を年に一度開催し、分担金と配分金を決定して運営している。しかし、教規上の規定がなく、教団の組織的位置づけが正しくなされていないまま、現在に至っており、組織的整備・位置づけが、解決すべき問題となっている。また現在、教区活動連帯金に

対して参加しない教区、拠出を保留する教区などがあり、現在の形態をそのままにしておいてよいのかとの疑問がある。こうした問題も視野に入れて、現在の教区活動連帯金の在り方を根本的に検討し、今後教団が行うべき教規的組織的整備について具体策を提案する委員会が必要である。」

「教区総会に教団間安使用を拒否する教区もある。そんな中での連帯とは何か。まず連帯を確認しなくてはならない」「配分だけなら問題はない、仲良く出来ないことが問題。破綻を認めなければならぬ」「経済的に教区間格差がある中で、一つ

の教会として支え合うことが大事、互助を話し合い実行してきた。公平な配分を検討してきた。これらを踏まえて、システムを構築して欲しい」「多様な受け止め方があり、意見が交錯し大変、それは事実だが、その中で合意を得た。その中で、制度を整える必要を感じた」「36 議案の原点を思わせる。その後暴力的総会が続いた。連帯どころではない。これを総括しないで、昔は良かったようなことと言えない」「負担金を払いたくないという意見もある」「伝道に取り組むプロジ

エクトを行っている。意見が違っても、一緒にやって行く中で、少しずつ作っていくこともある。止めたら伝道のエネルギーがそがれる」「未受洗者配餐をする教区議長もいる中でどう連帯するのか」「人口激減の教区・地域もある。日本全体の伝道を支えるのがこの制度だ」「過去の経緯。破綻していることを受け止めない」と次に進まない。これらの意見を受けて山北議長は「教団問題の根幹に集約さ

諸報告巡り踏み込んだ質疑  
日本伝道 150 周年記念、感謝のうちに報告

1 日目夕食休憩後のセッションでは、議事日程に従って、諸報告がなされた。日本伝道 150 周年記念事業準備委員会報告の件では、藤掛順一書記より、会計の中間報告と共に、協力への感謝が述べられた他、記念出版について、特に、座談会は、委員会の公式見解ではなく、異なる歴史認識の存在する現実を踏まえての編集を願ったが、一方の立場から 50 年史の協力が得られなかったために、そのことを浮き彫りにするべく企画されたことが説明された。この点を巡り、自由な発言とは言いが、内容的に、常議員会で決められたこととの齟齬が生じているのではないかと、との問いが出されたが、藤掛書記は、宣教 100 年後の 50 年を振り返る中で、現状の課題が正直に述べられたものでは

ないかと考えている。その意味で、趣旨には反していないとの考えをあらためて示した。在日韓朝鮮人連帯特設委員会報告の件では、小橋孝一委員長より報告を受け、他、難波幸夫委員長より外キ協出席の報告を受けた。キリスト教教育主事養成

に関する検討委員会報告の件では、木下宣世委員長より、聖和大学と協議をふまえて 7 月常議員会には具体的提案を出す旨報告された。出版局理事会報告の件では、小島誠志理事長より、中間報告であることを踏まえつつ、分科会の名称変更、経費節減の具体的状況等が

説明され、更なる経営の健全化に向けて努力が続けられている旨報告された。それを受けて、活発な協議がなされた。年金局理事会報告の件では、高橋豊理事長、篠田安晴副理事長より、資金運用について、運用益は計画がほぼ満たされる見込みであること、評価損益も昨年同様の現状からは相当の回復を見せているが、未だ長い道のりを必要とされる等、困難な状況の中にも堅実な運用を行っていること、今日のような状況に備えるため、有価証券価格変動準備金の造成を目指していること等、詳細な報告を受けた。

第 1 日目の書記報告議案の際、後宮敏爾常議員が「北海教区で教区との話し合いについていない教会の主任が担任教師就任式を 1 月、佐々木美知夫教団副議長が司式して行った。三役の教区違反ではないか」と発言し、問題を投げかけた。佐々木副議長は、札幌教会・米倉美佐男牧師と美名

を挙げたうえで、「就任式で司式したことは事実だが、教規違反とは思っていない。教規には「教区と協議の上」と記してあるが、教区と教会は協議したが、合意に至らず、教区は就任式を行おうとしていない。この問題を議論するには、米倉牧師もこの場に呼ぶ必要があり、ここでは内容に

立ち入らない。司式を受けるに当たっては、教会・教区とのやり取りを文書で充分確認した上で引き受けた。『協議が完了していない』が教区の見解だ。その中で、就任式が執行されたことに、驚き、戸惑っている。同時に教区議長の責任も問うて欲しい」と述べた。久世そらち北海教区議長は、「教会との話し合いを継

続している中で、就任式の案内状をいただき、当惑した。『協議が完了していない』が教区の見解だ。その中で、就任式が執行されたことに、驚き、戸惑っている。同時に教区議長の責任も問うて欲しい」と述べた。久世そらち北海教区議長は、「教会との話し合いを継

札幌教会牧師就任式について議論



連帯金問題で発言する伊藤瑞男予決委員長

立ち入らない。司式を受けるに当たっては、教会・教区とのやり取りを文書で充分確認した上で引き受けた。『協議が完了していない』が教区の見解だ。その中で、就任式が執行されたことに、驚き、戸惑っている。同時に教区議長の責任も問うて欲しい」と述べた。久世そらち北海教区議長は、「教会との話し合いを継

これに対し、「教区の常置委員会が主任担任教師の招聘を承認しながら、就任式を行わないのは教区の責任」とする意見が相次いだ。この問題は総幹事預かりをしたい」と提案。挙手多数で議長提案が承認され、札幌教会問題は、内藤留幸総幹事預かりとなった。

この問題を議論するには、米倉牧師もこの場に呼ぶ必要があり、ここでは内容に

立ち入らない。司式を受けるに当たっては、教会・教区とのやり取りを文書で充分確認した上で引き受けた。『協議が完了していない』が教区の見解だ。その中で、就任式が執行されたことに、驚き、戸惑っている。同時に教区議長の責任も問うて欲しい」と述べた。久世そらち北海教区議長は、「教会との話し合いを継

これに対し、「教区の常置委員会が主任担任教師の招聘を承認しながら、就任式を行わないのは教区の責任」とする意見が相次いだ。この問題は総幹事預かりをしたい」と提案。挙手多数で議長提案が承認され、札幌教会問題は、内藤留幸総幹事預かりとなった。

これに対し、「教区の常置委員会が主任担任教師の招聘を承認しながら、就任式を行わないのは教区の責任」とする意見が相次いだ。この問題は総幹事預かりをしたい」と提案。挙手多数で議長提案が承認され、札幌教会問題は、内藤留幸総幹事預かりとなった。



経緯を説明する久世そらち北海教区議長

戒規(免職)執行決議

教師委員会

て、雲然俊美調査員長が調査報告書による調査報告をした。主な内容は以下の通り。

〔調査の経緯〕 申立人の小林貞夫氏とは面談をしたが、被申立人の北村教師は 3 度にわたる面談の申し入れに応じなかったため、申立書と添付資料、及び同教師がこれまで公にして来た文書等をもつて調査を進めた。

〔調査結果〕 北村教師が行っている未受洗者の配餐は教規第 135 条、136 条、138 条①の規定に違反しており、教憲第 1 条違反であること、同教師は未受洗者への配餐を継続していること、同教師は教団常議員であり、同教師による教憲教規違反の行為が教団全体に与える影響は大きいことなど、調査員会は申立人の主張が事実であることを確認し、調査を終了した。

この調査報告について戒規は罰則ではなく悔い改めを求めている、まず未受洗者への配餐を停止すべきだ、この件は教師委員会が扱う範囲を超えている、北村教師が調査員会との面談に応じなかったことは問題である、北村教師が面談に応じるのを待てばいい、聖餐論を議論すべきだ等々の意見が交わされ、委員会として慎重に審議した後、松井委員長が調査報告の承認を求めたところ、賛成 5 名、反対 2 名でこれを承認した。

次に、戒規の適用について時間をかけて審議し、松井委員長が採決を提案したところ、2 名の委員が採決に抗議して退席した。その後、本委員会では、教規第 14 条、戒規施行細則第 1 条及び第 4 条(4)により、北村教師を免職することを決定した賛成 5 名。

以上のほか、今年 6 月 21 日、伊豆市・大城山荘にて開催する新任教師オリエンテーションの内容については委員長、書記による教務会で検討することなどを決めて閉会した。

(雲然俊美報)









## 個教会と全体教会に仕える群れとして

### 全国教会婦人会連合 第83回中央委員会

2010.1.18～20 於:日本キリスト教会館

去る1月18日～20日、全国教会婦人会連合第21期第83回中央委員会が、今期主題「キリストの祝福に満たされて―エフソンの信徒への手紙を学びつつ―」のもと、日本キリスト教会館で開かれた。出席者は、中央委員25名中23名(西

席者は、中央委員25名中23名(西中国・九州教区は欠)、準中央委員(東京5支区各1名)のほか、要請陪席、教区陪席等を含め計52名。まず、開会礼拝(司式・説教、郷かしこ牧師)で、「私たちは神から招かれ一つとされた存在であり、また一人ひとりに恵みによって異なる賜物を与えられている。それを用いて、キリストに向かって成長してゆきたい」とのメッセージを受けて議事に入った。

1日目は、前回中央委員会(昨年6月)から現在までの諸活動報告と5つの小委員会および各教区報告を含め、終日ていねいになされた。そのうち教区報告では、期主題や地域に即したテーマに基づいた諸活動の報告と共に、高齢化等による会員数の減少、婦人会組織がなくなる教会の増加等の課題と、それを克服して連帯を図っている事例なども語られ、貴重な交流のひとつとなった。

2日目から3日目にかけては、期主題のエフソンの信徒への手紙を、発題、分団、全体会の順で共に学んだ後、次の3つの議事が、いずれも熱心に議された。

①40周年全国集会の評価と今後の展望。約1200名の大きな集会だったが、全体としてよく準備され、進行もスムーズで感動したとの声が多かった(四十周年全国集会報告書)も是非参照されたい。また、今後に向けては、聖書に聴きつつ、共に担うべき課題を探っていくたい、若い世代への継承を具体的に、など、活発な話し合いが続いた。

②「にじのいえ信愛荘」をどう支えるか。新しく出発する「にじのいえ信愛荘」は、教団の「各種

センター」の一つであり、東京教区・西東京教区・婦人会連合の三者が運営母体となることを確認した上で、今後も責任的に関わり続けていくため、婦人会連合内に「にじのいえ信愛協力委員会」の設置を決定。「にじのいえ信愛荘規則」(特にその第六条①の運営委員人数配分の件について)の検討と、それに伴う「全国教会婦人会連合規約」の一部改正も時間をかけて議されたが、継続審議となった。

③全国教会婦人会連合への理解をめぐって。全国教会婦人会連合は、委員選出も財政も活動もみな自主的に行うが、あくまで教団内にあって「教団宣教委員会の活動を側面から助ける」ことを目的とする教団内自主活動団体である(教規第2章第41条④による)。しかし、この理解が浸透せず、単なる「外郭団体または自主的に(勝手に)つくられたもの」と誤解、連帯の輪を離れていくものもある。そこで「全国教会婦人会連合小史」の抜粋を参照しつつ話し合

って理解を深め、先達たちの「内にありつつ他者の目をもって」という姿勢も改めて確認された。その後「婦人会連合」の名称をめぐって、各教区・小委員会からの意見をもとに話し合ったが、今回は結論に至らず、継続となった。

閉会礼拝(司式・説教、小泉富子牧師)でも、エフソ書からの「キリストの十字架の贖いにより、創造時の神の『祝福』は回復された。その恵みをほめたえつつ、キリストの充滿する教会に召された者として、召しにふさわしく歩みたい。神の武員を身につけて諸悪の根源にある悪魔的な力と戦い、どんな時にも折り続けながら」との言葉に励まされ、それぞれ自分の教区・教会に帰っていった。

(斎藤潤報)

## 三国間協議会 11年7月5日から 東京開催決定

### 第4回三国間協議会実行委員会

三国間協議会実行委員会は第4回委員会を2月2日に教団会議室で開き、第3回目となるスイス・韓国との三国間協議会を2011年7月5日から4日間東京で開催すると決定した。

また3日目には、第二次世界大戦の罪責に対する贖罪の業として始められたアジア学院を訪ねてアジア地域その他、世界各地から招かれた学生と交流の機会を持つ。協議会に続くオブショナル・ツアーも検討されている。

実行委員会は3月にも開催を予定しており、プログラムの細部の詰めを行って趣意書の完成を急ぎ、参加団体への正式な開催通知を送りたいとしている。

(石田周介報)

### 出版局 ニュース

http://www.bp.ncj.or.jp

#### ★新刊から

『キリストこそ我が救い―日本伝道150年の歩み』日本基督教団日本伝道一五〇年記念行事準備委員会編

1959年の宣教100年から50年間を教団はこう歩んだのか。日本伝道に大きな足跡を刻むキリスト教学校と社会福祉事業の歩みとは。歴史を振り返り、日本伝道200年に向かって進むべき道を探る。\*2730円



柊田 京子さん

### 幼稚園も伝道のため



1951年、東京生まれ。奥沢幼稚園主任教諭。奥沢教会員。

京子さんの先生は、「たると先生だった。園児として通った教会幼稚園で、卒園してからも生徒として通い続けた教会学校でいつも迎えてくれた先生だ。子どもとかかわる仕事に就きたいと志したのも、幼いときにひとりのキリスト教保育者と出会ったことが源にあった。

幼稚園教師は、子どもたちが家庭から社会に踏み出す最初の一歩を手引きする大切な導き手はじめて出会う先生と言ってよいだろう。この最初の導き手となるのにキリスト教信仰を土台として務めに当たるのがキリスト教保育者である。自らも教会幼稚園に通い、同時に教会学校にも通い、それ以来これまで教会幼稚園からも教会学校から

京子さんが勤める幼稚園では教会学校との連携も良く、卒園後も出席が続く。卒園生たちの受け入れに幼稚園教師が果たす役割は大きい。成人を迎えた卒園生たちを礼拝に招く試みを新たに始めて出席者を与えられた。幼稚園での数年間だけでなく、教会学校、その後も、教会の門をくぐった子どもたちを長く覚え続ける営みだ。京子さんもかつて同じようにしてもらった。幼子をキリストへ、キリスト教保育の根幹を何とか良く果たしたい、京子さんの祈りと実践はなお熱い。

去る1月21日～22日教団部落解放センターを訪問した。

東谷誠運営委員長、谷本一廣活動委員長そして小林明主事をはじめ各委員の方々と会合を持つことができた。

昨年の6月13日～22日四国教区で実施したキャラバンの成果、また今年6月7日～9日、東京、西東京教区の協力を得て開催する第11回全国会議の準備状況などを伺い当面する様々な課題について丁寧に意見を交換した。

特に「教会の中に差別はない」「もう差別問題は過去のことで

### 部落解放センター

そんな中、部落解放青年セミナーにおおくの参加者が集うていることは心強い限りだ。

同センターの事務局を28年にわたって担当下さった五十嵐照美姉に再会し改めて謝意を表した。

(教団議長 山北宣久)